

Photo ふなばし



三山の七年祭で秋空に舞う八王子神社の神輿 みこし

とくしゅう
PART 1

550年の伝統 三山の七年祭
勇壮な神輿に12万人が熱狂

とくしゅう
PART 2

写真で見る船橋物語Ⅲ
《近世》

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- サークル通信
- WE ARE IN FUNABASHI

まちなかの文化財／ふなばしの民話
市民ひとことインタビュー



二代目広重が万延元年(1860年)に描いた「下総舟橋大神宮」

vol. 82

広報ふなばし写真版

11月号 (隔月第4月曜日発行)

とくしゅう
PART 1

550年の伝統 三山の七年祭 勇壮な神輿に12万

人が熱狂



9つの神輿が続々と集まる神揃場。ここから一基ずつ三山の町を練り歩き、二宮神社に昇殿します



三山の神揃場^{かみそろいば}に6年ぶりに神輿^{みこし}が勢ぞろい。「ソイヤ、ソイヤ」の勇壮な掛け声が秋空に響き渡り、棧敷や沿道には12万人もの皆さんが詰め掛けました。

丑年^{うし}と未年^{ひつじ}に行われる「三山の七年祭」。丑年の今年も、9月12・13日の「湯立祭^{ゆだて}（小祭）」に始まり、11月1日の「みそぎ」、2日の「安産御礼大祭」で最高潮に達しました。船橋、千葉、習志野、八千代の4市から9つの神社の神輿が神揃場に集合。次々と二宮神社に昇殿しました。その後、2日夜から3日未明にかけて「磯出祭^{いそで}」が厳粛に行われました。

室町時代の文安2年（1445年）、千葉氏一族の馬加城^{まかじ}（千葉市幕張町）城主馬加康胤^{やすたね}の妻が懐妊。10か月過ぎても出産の兆しがないので、二宮神社などの神官に安産祈願の加持祈禱^{かじきとう}をさせました。そして、無事男子が誕生し、二宮神社で安産御礼の大祭を行ったのがこの祭りの始まりと伝えられています。

550年余の歴史と伝統を持つ「三山の七年祭」。これからも、地域の人々に愛され、引き継がれていくことでしょう。



9月に行われた湯立祭（小祭）には子ども神輿も登場。昔は、この日に大祭の日程を決めていました

